

生物多様性なごや戦略 実行計画2030について



名古屋市環境局 環境企画部 主幹（生物多様性に係る連携推進） 森 匡司

COP15参加（名古屋市）

- ・杉野みどり副市長はじめ、計4名が参加
- ・第7回生物多様性国際自治体会議への参加
- ・海外の他都市等との意見交換
(ムレマ生物多様性条約事務局長、スコットランド政府、昆明市、パリ市)



COP15参加(名古屋市)

第7回生物多様性国際自治体会議
(2022年12月11日~12日)



COP15参加(名古屋市)



第7回生物多様性国際自治体会議

- ・名古屋市のCOP10以降の取組成果の発信
- ・生物多様性自治体ネットワークの活動の紹介

COP15参加（名古屋市）



- 生物多様性条約のCOPで初めて、自治体に特化して設けられたパビリオン
- 12月13日のチャイナデーでは、愛知県、名古屋市、佐渡市が発表



COP15参加(名古屋市)



Nature Positiveパビリオン

COP15参加(名古屋市)

Think globally, Act locally.

地球規模で考え、地域で行動する



ムレマ 生物多様性条約事務局長

- ・人口増加に伴う需要をどのように対応していくか。

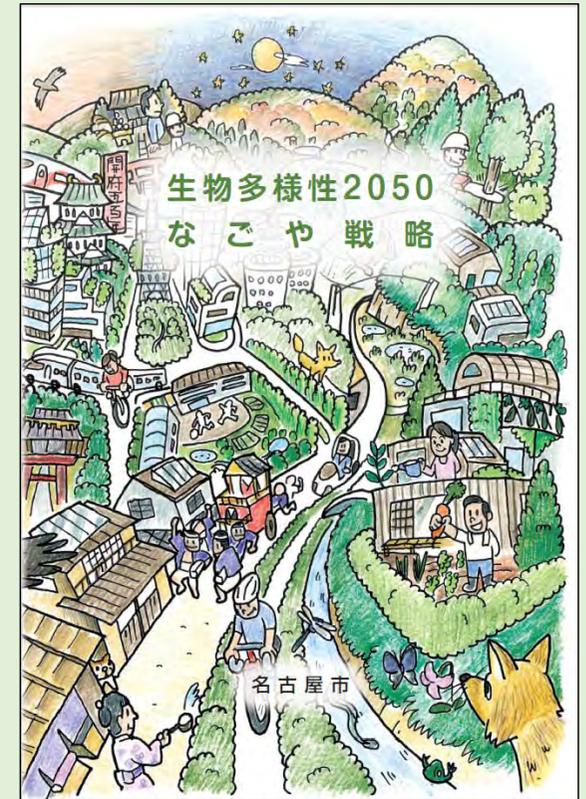


ナジドフスキー パリ市副市長

- ・パリ市は気候変動による熱波が深刻。
- ・緑化できるところは緑化し、2026年までに、その年に生まれる子どもの数だけ木を植える。

名古屋市の生物多様性地域戦略

- 2050年までの長期戦略を2010年に策定
(法に基づく地域戦略)
- 短期・中期的な方針は、これまで、
市の環境基本計画の中で位置づけ



新たな世界目標・国家戦略ができるタイミングを捉え、
生物多様性なごや戦略実行計画2030（仮称）を策定予定
(2023年9月予定)

※ 計画名は仮称ですが、本プレゼンテーションでは、便宜上、「（仮称）」を取って表記しています。

生物多様なごや戦略実行計画2030

策定にあたってのこだわり

求められることが様々にある中での的を絞る

- 💡 重点的、優先的にやるべきことに内容を絞る

国、県等との役割分担を意識

- 💡 基礎自治体にしかできないことを突き詰める
(身近な自然の保全・再生、まちづくり等の現場が伴うもの)
- 💡 県が行う良い取り組みは、積極的に連携し、市の計画でも位置づける

生物多様なごや戦略実行計画2030

2030年までの重点方針（柱）

重点方針 1 生物多様に配慮した**まちづくり**の推進

重点方針 2 **社会変革**につながる取り組みの促進

重点方針 3 自然と共生する**人づくり**

重点方針 4 生物多様性保全の**拠点・ネットワーク**の強化

生物多様なごや戦略実行計画2030

2030年までの取り組み（自然共生サイト関係）

※「重点方針1 生物多様性に配慮したまちづくりの推進」に位置づけ



内 容	前 期 (2023・2024 年度)	中 期 (2025～2027 年度)	後 期 (2028～2030 年度)
生態系に重要な場所等の 可視化と調査・保全活動 の促進 新規	生態系に重要な場所や自然共生サイトの申請対象となり得る場所の把握、リスト化・地図化	生態系に重要な場所や自然共生サイトの申請対象となり得る場所の地図等の公開 生態系に重要な場所や自然共生サイトに認定された場所における重点的な調査・保全活動の促進	

自然共生サイトの認定個所数を、数値目標として設定予定

生物多様なごや戦略実行計画2030

2030年までの取り組み（自然共生サイト関係）

※「重点方針1 生物多様に配慮したまちづくりの推進」に位置づけ



内 容	前 期 (2023・2024 年度)	中 期 (2025～2027 年度)	後 期 (2028～2030 年度)
まちづくりに活かすための生きものの情報の提供 新規	開発事業者等が利用しやすい情報の内容・提供方法等の検討	開発事業者等に対する適切な情報提供	

生物多様性なごや戦略実行計画2030

都市と生物多様性指標（簡易版）[国土交通省]を進捗管理に活用予定

名古屋市の現状値（2016年度）

- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）が全国665自治体を対象に調査し、2016年11月に公表した報告に基づく。
- 緑被地等の割合は、衛星写真に基づく国土数値情報が使用されており、市が独自に調査・公表する緑被率等の数値とは異なる。

指標	概要	現状値 (2016年度) ※
1 緑地等の現況	緑地等の都市に占める割合	12.64%
2 法令等で保全されている緑地等の状況	風致地区、特別緑地保全地区などの法令等に基づき確保される緑被地・水面等の都市計画区域面積に占める割合	9.84%
3 緑地等の連続性の状況	連続性のある緑地の割合（半径250m以内に緑地がある場合を連続性があるとみなす）	10.04%
4 動植物種の調査状況	動植物種数調査の調査頻度や地点・対象種の固定、計測方法の記録保管等の状況	D
5 生態系サービスの状況	①緑化等による温室効果ガス吸収量	16357.73 t-CO2/ha・年
	②緑地等による冷涼化効果（樹冠被覆面積）	4.97%
	③緑地等による透水効果	12.64%
6 行政の生物多様性取組状況	現状調査・分析・評価、施策の立案、計画の点検・実施・評価の状況	10個
7 行政計画への住民等の参加状況	計画策定、公表、実施、点検、評価の各段階における住民・企業等の参加状況	6個

ご清聴ありがとうございました。



100年後の夢のなごやの姿 「生物多様性2050なごや戦略」より



30by30